

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171000565		
法人名	医療法人社団 豊生会		
事業所名	グループホーム すぎの子の郷		
所在地	当別町春日町97-1		
自己評価作成日	平成25年11月1日	評価結果市町村受理日	平成26年2月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・緑豊かな当別町の中心部に位置し、施設側には、3頭のヤギを飼育しながら、入居者さんと一緒にエサをあげたり、地域の子供や保育園の子供たちが遊びに来たりする事もあり、「癒し」の場になっています。開所され、今年の12月で8年目に入り、地域への周知もされ、近所の方からは、野菜の差し入れがあったりして、交流もあり、地域の方参加で防災訓練も実施できました。そのお礼には、運営推進会議の時に屋外での焼肉ランチに誘ったり、今では入居者さんとも馴染みの関係で、以前より、町内行事への参加が多くあった年でした。施設に入所されていても、「認知症」があっても、出来るかぎり社会参加できる場を提供し合って支援しています。「すぎの子の郷」は家族参加の行事も多く提供しています。介助者の同行があれば、家族も安心して、「レストランバイキング」「温泉人情芝居」など職員もいつもと違って「一緒に楽しめる」「一緒に笑える」を基本に、一緒に「余暇も介護」も共有しながら「すぎの子の郷」で良かったと感じて頂けるように、提供しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0171000565-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成25年12月6日

事業所はJR当別駅から徒歩10分程の町の中心部に位置し、交通の便や買い物等の利便性の高い立地である。居間、廊下等の共有空間は、入居者やボランティアが作った作品が飾られており、ゆったりとした雰囲気、季節感が感じられるよう配慮されている。また、居室においても自分らしさを大切に、自由に家具や装飾品を配置し、楽しめる工夫が行われている。町内行事に積極的に参加・協力する等、住み慣れた街でその人らしく、生きがいを持って、安心して暮らせるよう支援を行っている。今後も地域の拠点として、更なる発展が期待出来る事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は誰もが確認出来るようにフロア・詰め所に掲示しています。また各自がいつでも確認出来るようにネームカードに入れ常に携帯しています。	法人全体の理念と事業所独自の理念を玄関ホールに掲示して、職員間で共有し、ケアの実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流に積極的に参加し町内の行事には出来る限り出席させていただいています。近所付き合いもあり採れたての野菜を頂いたりすることもあります。	町内行事へ積極的に参加・協力している。また、定期的にボランティアを受け入れ、気軽に立ち寄ることの出来る雰囲気作りで、地域と大変良好な関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	他の事業所との合同での勉強会・研修会の開催を行っている。ふまねっとのインストラクター資格を持つ職員による出前講座を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行い参加者からの意見を聞いたり、報告を行ったりしている。交流の機会とし会議の後に参加型の行事を入れ参加しやすい工夫もやっている。出席出来ない家族にはお便りで伝えています。	包括支援センター・家族代表等が参加し、年6回開催している。会議では、運営状況、問題点を明らかにし、積極的に委員からの意見を取り入れることで、サービスの質の向上に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	他事業所主催の研修会に参加するなど交流もあります。定期的に顔を合わせる機会もあります。	各種委員会、運営推進会議等での事例検討の他、外部研修に参加した職員による伝達研修を行う等、ケアに関して検討する機会を持ち、身体拘束のないケアに努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の会議で全職員が周知確認を行い、拘束を行わない介護上の工夫を相談しながら話し合う機会があります。また研修に参加し理解出来る機会を設けています。	身体拘束に関して、内外での研修会を通して身体拘束しないケアの実践に取り組み、また身体拘束に関するマニュアルが整備されており、職員間で確認しながら行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃不適切な高齢者虐待や行動がないか毎月の会議で全職員が周知確認を行い理解出来る機会を設けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の中に後見人制度を使われている方もいます。必要な場合は活用出来るようになっていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は口頭及び文章で説明しています。疑問点があれば理解・納得出来るようにわかり易く説明行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と面会時など話す機会がある場面にて介護計画の説明、意見、要望を伺っています。	家族との面会時に、意見の聴取に努め、改善が必要な事例は全職員で話し合い、取り組んでいる。意見箱を設置している他、苦情相談担当者や外部苦情受付機関をわかりやすく掲示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との話し合いの場を設けています。申し送りノートも活用しています。	月1回会議を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けたり、随時、職員との話し合いで意見等を聞き入れ、運営に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々を把握した適切なアドバイスがあり、やり甲斐を持って働ける環境がある。リフレッシュ休暇、資格手当など職員への還元もあるので向上心を持って働く事が出来る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では経験年数別に研修があり個々にあったカリキュラムで学ぶ事が出来るようになっていく。外部研修の講演の掲示もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との研修、勉強会の機会があり交流を行いながらネットワーク作りを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談などで情報を集め、入居の際に混乱されないように関係性を作り安心した入居に繋がるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居以前に家族と本人の状況、家族の不安、困っている事やどのような支援を望んでいるかを把握し、良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望の方には見学に来ていただき、本人の状況、何が困っているか、何を希望されているのか聞き、出来る限り対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存能力を活かし、調理、掃除、買い物など一緒に言いながら本人の自信に繋げている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年間行事の中に家族参加型の行事を組み込み一緒に参加出来る機会を設けています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人、家族との会話、コミュニケーションから馴染みの人や場所を引き出し、希望に添えるような支援に努めている。	日々の関わりの中や家族からの情報を基にしながら、利用者の生活習慣や馴染みの場所等を把握し、一人ひとりの想いに添える様、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格や相性を把握したうえで家事や関わり、共通して楽しめる時間を職員が支えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もホームを訪問される家族もいらっしゃいます。病院に入院された方のお見舞いに行ったりもしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普通のなげない会話や表情、言動などから本人の意向を尊重出来るように支援している。	日頃の利用者との会話等から、本人の希望や思いを把握するよう努めている。困難な場合は、生活暦や家族からの情報等により本人本位となるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの生活歴をもとにその人らしく生活出来るように配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を通し記録を記載し過ごし方や残存能力の変化などの把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成やケアプラン変更前に本人、家族の希望・要望を確認、職員の気づきや意見を取り入れながら毎月の詰会でカンファレンスを行いケアプランに反映させている。	利用者、家族等と担当者会議を行い、意見等を集約し、介護計画を作成している。また、定期的にモニタリングを行い、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は日常の様子を記載する他に排泄・食量なども記載し状態の変化が解るようにしています。申し送りなどで情報を共有しながらケアプランの見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族からの申し出に対して柔軟なサービスが提供できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町の文化祭見学、保育所の行事見学などの地域の行事やボランティア交流など行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する病院へ定期的に受診しています。かかりつけ医もおり、急な体調変化には受診出来る体制にあります。	本人、家族の要望を伺い、かかりつけ医とのつながりを大切に支援するよう努めている。また、受診内容については個別に記録し、職員間で共有している。通院は原則として職員が同行、支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師にはバイタルチェック、体調管理、相談にのってもらいながら助言もしてもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は病院、家族と情報交換を行いながら本人の不安軽減になるようにお見舞いに行ったり、食事が摂れない方に対し出来る範囲で食事介助のお手伝いに行き早期退院に繋がったりしています。必要に応じてお互いに情報交換できるようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアに関しては医療連携体制が整わず難しい状況です。	重度化、終末期の対応については、契約時に事業所の方針、対応について説明している。また、状況に応じかかりつけ医、施設入所等の支援を行っている。	地域に整形外科以外の医療機関がなく、現状で困難である。母体法人や江別市内の医療機関との話し合い等、今後の取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルも確認出来るようにしてあります。事業所、法人での勉強会で学ぶ機会もあります。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は想定を変えながら行い地域の方も参加され協力体制もあり実施出来ています。食糧の備蓄も用意してあります。	防火点検チェック表を記録し、職員会議で改善点・対応策について話し合っている。避難訓練は昼夜想定で年2回実施。入居者、近隣住民も参加し、避難方法等の確認、協力体制作りに努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけない関わりを行い、尊厳・プライバシーに配慮した対応をしています。	利用者個々の意見・尊厳を尊重し、敬意ある対応を心がけている。職員会議や研修等の場で共有し、実践に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が何を求めているのか理解しながら自己決定が行えるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、状況に合わせて1日を過ごしてもらえるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪は訪問美容室でカット、髪染め、パーマを行っています。御家族と一緒に美容室に行かれる方もいらっしゃいます。服装は好みに合わせ支援行なっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に食材購入に行き好みの物を購入したりしています。調理や食後の片付けを一緒に行ったりしています。	調理から後片付けまで、個々の利用者に出来る範囲で手伝ってもらい、日課としている。嗜好等の要望も取り入れ、献立作りに活かしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はチェック表を作成し把握出来るようにしています。水分が少ない方には好みの飲み物を提供し水分量が確保出来るようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、晩の口腔ケアは行えています。御自分で出来ない方にはお手伝い・介助しています。夜間は義歯を外し、洗浄しています。定期的に訪問歯科の利用もあります。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄パターンに合わせ時間やしぐさでの誘導を行っています。	排泄チェック表により排泄パターンを把握している。声かけやサインを見逃さないよう日頃から意識し、出来るだけトイレでの排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食には十穀米を提供し、昼食、夕食には排便状況に合わせて糸寒天を使用しています。分食として果物の提供も行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の希望や体調に合わせた入浴を心がけています。楽しく入浴してもらえる工夫として入浴剤にも気を使い色や香りを楽しんでもらえるようにしています。	週3回以上の入浴を目標とし、日常生活のリズムを作り、体調に配慮しながら楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを把握し個々に合わせた日中の活動を増やし夜間良眠できるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の変更や医師からの指示、受診内容は申し送りや記録を行い職員に周知出来るようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の習慣や趣味を把握し個々に合った楽しみを持って頂けるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自ら外出を希望される方はあまりいませんが毎月外出行事があり外出の機会は設けています。町内行事にも積極的に参加させてもらっています。	買い物や、散歩、毎月の外出行事といった外出機会を多く持つよう努めている。また、個々の入居者の希望に沿って日用品の買い物、用足し等を職員同行で支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は自己管理されている方はいらっしゃいません。買い物に行きレジでの支払いが出来る方には支払いをお願いしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合はお手伝いしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除で心地よく過ごせるようにしています。季節に合った飾り付けを行う事で季節を感じて頂いています。	共用空間は採光もよく、清潔に保たれている。利用者が好きな場所で過ごし、それを見守ることで居心地のよい環境を作り出している。リビングの飾りは、入居者と一緒に作成し、季節感を配慮したものとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが好きな場所や座り心地の良い場所があるようなので自由に過ごせるように工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具が持ち込まれています。仏壇を置かれている方もいらっしゃいます。	居室は、使い慣れた馴染みのものを自由に持ち込めるよう配慮されている。また、温・湿度の管理がなされ、居心地よい空間作りの為の工夫に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの取り付け、床はバリアフリーになっており移動しやすい空間で安全に生活出来るようにしています。電気のスイッチ等テープで解りやすい工夫をしています。		